

～ 旭川荘の夏祭りのひと時を仲間と過ごして ～

7月28日（木）午後6時、旭川荘竜の口寮を訪問しました。池田敏和さんはいつでもお祭りに行けるよう介助用車椅子に乗って、ボランティアの方が来られるのを待っていました。私が行くと「かわかみ、せんせい、きている」と言われる。池田さんが以前おられた、かわかみ療護園も夏祭りに夜店のテントを出しているらしく「せんせいに会いに行こう」と言うと「うん」と返答をしてくれる。すると間もなく何回聞いてもよくわからない事を言われる。何回も聞いていると辛そうな表情に変わるので、スタッフの方を呼んでくると、硬直している腕を車椅子に固定して腕が下がらないようにしている腕が痛いのでゆるめて欲しいという事でした。「危ないので、今はゆるめるけど、行く時には固定するよ」とスタッフの方に言われると納得され、ひと安心しました。

しばらくしてボランティア（介護福祉の勉強をしている学生さん）の方達が到着し、何人か一緒に夏祭りに出発しました。やはり硬直している腕が下がって車椅子のタイヤに当たりそうなので「腕を少し上げるよ」と言って腕を持ち上げると、痛いらしく大きな声を出すので、仕方なくタイヤに当たらないよう手を軽くにぎり注意しながら行くことにしました。ボランティアの方と一緒に出店テントの地図を見ながら川上療護園の出店テントに到着すると、池田さんの知り合いのスタッフの方がおられたようで満面の笑みを見る事ができました。しばらく川上療護園の出店テントにいましたが、池田さんの飲めるもの、食べれるものが川上療護園テントになかったので、飲食をするため移動することにしました。

「何が欲しい？」と聞くと「コーヒー」と言われるがコーヒーはどこにも無かったので、「かき氷は？」と聞くと「うん」と言うので、かき氷のいちごを食べる事に！しかし、かき氷は人気ですごい列でした。やっと入手し、ボランティアの方に食べさせてもらいましたが、少し残す程度でほとんど食べて、大丈夫かなあと思っていると、今度は「みず」と言われているようなので何度も聞くと、すぐそばで売っていたラムネが飲みたい事がわかり、ストローを指して飲みました。

一緒に過ごして1時間30分程度が過ぎ、花火が始まる時間になったので、竜の口寮に戻っている途中、吉田さんと、渡辺職員にうまく出会い一緒に竜の口寮に戻り、池田さんは念願の缶コーヒーを自販機から購入し、飲むことができました。ここでボランティアの方とはお別れしましたが、別れ際に池田さんは「ありがとう！、ありがとう！」と何度もお礼を言われ、感動しました。花火は竜の口寮の中で見ました。毎年見る場所が決まっていて、私たちをその場所に案内してくれました。花火もきれいでしたが、花火を見る障害のある皆さんの表情を見るのが楽しかったです。

池田さんは私たちにもお別れするとき「ありがとう！、ありがとう！」と一生懸命言われ、再度感動しました。弟さん・亡くなった親御さん・施設のスタッフの方のしつけどらうと思います。おかげで楽しい時間を過ごすことができました。私からも「ありがとうございました。」